

SDGs BOOK

COOP SAPPORO



● 環境活動報告 ● 組織概要 ● SDGs 対比表

子育て世代にも配慮した「ぬまのはた店オープン」
「食べる・たいせつなステイバル2024」道内8地区で開催
農業賞のつながりを新たな価値に「第12回コープさっぽろ農業賞」
宅配資源回収便・食器回収スタート「エコセンター」
「えほんがトック」「えほんわくわくキャラバン」
＊推し絵本＊をみんなで選ぶ「みんなのよみきかせ絵本大賞」ほか

活動報告

人と人／人と食／人と未来

人口急減時代の
生活協同組合に
求められること

小野博史氏 × 大見英明

特集2 対談

厚生労働省
消費生活協同組合
業務室長
コープさっぽろ
理事長

スクールランチ

医療連携事業 健康診断
移動販売車 おまかせ便利ケル
高齢者見守り協定

北海道の医食住を
支える生協へ

民間行政が地域を変える

特集1

2025

2024年度 受賞一覧

コープさっぽろおよび関連会社の主な2024年度受賞概要です。

3月吉日 主催・流通専門誌 ダイアモンド・チェーンストア

ダイヤモンド・チェーンストア
ストア・オブ・ザ・イヤー入賞
(きたひろしま店)

「この1年に開業した店舗で最も注目され
た店舗・商業集積」に贈られる賞で入賞。



4月10日 主催・一般社団法人 日本唐揚協会

第15回
からあげグランプリ®金賞

コープさっぽろの「北海道民のための塩ザ
ンギ」にて受賞。



6月7日 主催・公益社団法人日本マーケティング協会

第16回
マーケティング大賞 奨励賞

コープさっぽろの「子育て応援プロジェク
ト」の活動が評価され初受賞。



6月21日 主催・一般社団法人ノーコード推進協会 (NCPA)

第2回
日本ノーコード大賞 特別賞

株式会社エネコープの自社開発アプリに
よる業務効率化が評価。



9月19日 主催・株式会社ダイヤモンド・リテイルメディア

第3回
サステナブル・リテイリング表彰
明るい未来支援賞

資源回収の利益が子育て支援に活用され
る仕組みが評価。



10月7日 主催・一般社団法人データ社会推進協議会

2024年度
DSA DATA-EX賞
データ社会活用アイデア大賞

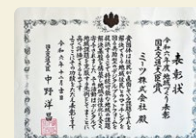
コープさっぽろ宅配システムドックにおけ
るAI活用プロジェクトが評価。



12月9日 主催・国土交通省、全国地域づくり推進協議会、一般財団法人国土計画協会

令和6年度地域づくり表彰
国土交通大臣賞

関連会社ミーツが取り組む新しいDXソ
リューション「共助型困りごと解決サービス
『ミーツ』」が評価。



COOP
CYCL
コープサイクル

北海道の暮らしを豊かにする
コープさっぽろの取り組みがもっとわかる。
「北海道で生きることを誇りと喜びにする」
ためのプラットフォーム



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

SDGs(持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals)は、2015年9月に国連サミットですべての参加国が合意し採択された、2030年に向けた世界共通の目標です。すべての人が持続可能な社会の中にあり、経済・社会・環境が一体となって向上した未来を実現するための具体的な目標として17のゴールが設定されています。

コープさっぽろSDGs BOOKについて(編集方針)

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」、2007年から「CSRレポート」の発行を続け、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示を続けてきました。現在、2030年に向けて世界的にSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みが加速しています。コープさっぽろは北海道においてSDGsを推進することを目標としており、「事業」「組合員活動」の両面でSDGs実現に向けた課題解決を推し進めています。その活動の一部ではありますがここにお伝えし、皆さまにも持続可能な社会について考えていただくきっかけになれば幸いです。

● 報告対象期間／
2024年度の主な活動を中心にまとめているが、補足的に当該年度以前の情報、2024年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2025年3月20日現在のものです。

● 発行年月／2025年5月発行
次回は2026年5月の発行を予定しています。

● ホームページ／<https://www.sapporo.coop/>
(当該情報に関するホームページでの公開は、2025年6月を予定しています)

● お問い合わせ先／生活協同組合コープさっぽろ 組織本部 広報部
〒063-8501 札幌市西区発寒11条5丁目10-1 TEL 050-1741-5516

INDEX

04 | コープさっぽろ(生協)と社会貢献について

特集1 民間行政が地域を変える 北海道の医食住を支える生協へ

- 07 | CASE1 医療連携事業 健康診断
- 10 | CASE2 移動販売車 おまかせ便カケル
- 11 | CASE3 高齢者見守り協定
- 12 | CASE4 スクールランチ

13 | コープさっぽろ 行政との沿革(2018年～)

特集2 対談 人口急減時代の生活協同組合に求められること

14 | 小野博史氏×大見英明対談

18 | コープさっぽろ事業MAP

人と人 活動報告

- 20 | ひとり親の高校生への「育英奨学金」
- 20 | 4年間で100万円給付「大学生育英奨学金」
- 20 | 新入職員の奨学金返済を補助「職員奨学金返済支援制度」
- 21 | 札幌国際大学、札幌新陽高等学校と「日帰りボランティアツアー企画」
- 21 | 「こまるとコープ」で家財・生前・遺品整理もスタート
- 21 | 高齢者向け運動教室「まる元」全道展開
- 21 | 「コープの家族葬」北見・釧路・帯広・網走にエリア拡大!
- 22 | 「令和6年能登半島地震及び能登豪雨災害支援募金」
- 22 | 宅配職員が「能登半島地震への現地支援」へ
- 22 | 児童養護施設へ食品提供「ドックフードバンク」
- 22 | 食事を作る喜びを伝える「ドックフードキャラバン」
- 23 | 働ける環境を整えて「障がい者雇用率」8%超え
- 23 | 「認知症の方にもやさしいお店」札幌市内29店舗が登録
- 23 | 子育て世代にも配慮した「ぬまのはた店オープン」

34 | 環境活動報告

36 | コープさっぽろの組織概要

39 | SDGs対比表

40 | 2024年度 受賞一覧

人と食 活動報告

- 24 | 「食べる・たいせつフェスティバル2024」道内8地区で開催
- 24 | 「北海道どさんこプラザ」かしわ店・東光店内にオープン
- 24 | 1日限りのスペシャルランチ「畑でレストラン」
- 25 | 農業賞のつながりを新たな価値に「第12回コープさっぽろ農業賞」
- 25 | 冷凍品取り扱いを拡大「宅配ドック」
- 25 | おいしい料理をお届け「夕食宅配サービス」
- 26 | 「高校生チャレンジグルメコンテスト」
- 26 | 高校生×食農体験「アニマドーレ」
- 26 | 全国高校生料理選手権「うまいっしょ甲子園」
- 26 | 長期休暇に昼食提供「児童会館ランチ」
- 27 | 店内で手作り「大惣菜化プロジェクト」
- 27 | プライベートブランド(PB)「なるほど商品」シリーズ
- 27 | 組合員さんと共に作った「北海道産とうきびアイス」発売
- 27 | 北海道素材にこだわる「さくらICE CREAMERY」オープン

人と未来 活動報告

- 28 | 1万人でごみ拾い「海のクリーンアップ大作戦!」
- 28 | 今度は街だ!初開催「街のクリーンアップ大作戦!」
- 28 | 「北海道森と緑の会との包括連携協定」を締結
- 28 | 当麻町×エネコープ「再エネ活用に関する連携協定」
- 29 | 宅配資源回収便・食器回収スタート「エコセンター」
- 29 | 苫小牧市×エネコープ「市有施設太陽光発電事業」開始
- 29 | 家電別の電力使用状況見える化サービス開始「トでんAI」
- 30 | 「えほんがトドック」「えほんわくわくキャラバン」
- 30 | 「リリアアブルと包括連携協定」を締結
- 30 | コープの学童「ドックキッズクラブ」
- 31 | “推し絵本”をみんなで選ぶ「みんなのよみきかせ絵本大賞」
- 31 | 道内各地の新1年生へ「ランドセルカバー贈呈」
- 31 | 親子のあそび場「ドックステーション」
- 32 | 「エルゴローディングシステム」日本初導入
- 32 | 最新事例から学ぶ「SDGs研究会」
- 32 | 買ってカーボンオフセット「北海道の森に海に乾杯!」
- 32 | サントリーとの共同企画「霧多布の自然を守ろう!」
- 33 | レジ袋辞退が森づくりに「コープ未来の森プロジェクト」
- 33 | 「マクニカ×慈恵会×コープさっぽろ包括連携協定」を締結
- 33 | 内定辞退後も入協可能に!大学新卒「内定3年保証制度」
- 33 | 「コープの家」を整備東川町へふるさと納税



私は、私たちと生きていく。

苦しい時、誰かにツライとこぼしちゃいけないんだろうか？

困っている時、誰かに救いを求めちゃいけないんだろうか？

悲しい時、誰かに泣きついちゃいけないんだろうか？

寂しい時、誰かに甘えちゃいけないんだろうか？

コープこと生活協同組合の根っこは「協同」という言葉にあります。

食や子育て、教育、高齢社会、環境、エネルギー、地域コミュニティなど、

力を合わせて生きるための仕組みづくりをすることが役目です。

そんなわけで、すべてオーケーじゃないかと思います。

ひとりじゃできないことは、みんなでやればいい。頼れる人には、頼ればいい。

自分で自分を変えるのはムズカシイけど、誰かが自分を変えてくれることがある。

だから恥じず拒まず、堂々と胸を張っていればいい。

そしていつの日か、誰かの誰かになればいい。

私は、私たちと生きていく。

それを目指す北極星にして、

コープさっぽろは2025年の60周年を駆け抜けます。

コープさっぽろとは？

北海道の生活協同組合。出資者である北海道の組合員さんのためになる、暮らしをより良くすることが存在理由です。

たとえば…

組合員数205万9239人（道内総人口の約73%）

自社物流を持つ（北海道ロジサービス）

こうした強味を生かして、人（道民）のためになる事業を運営し、得た剰余（利益）は組合員さんへ還元＝社会貢献していく仕組みです。



- 〈事業MAP〉18-19ページで、どのような事業を行っているのかを一覧にしています。
- 〈コープさっぽろの組織概要〉36-38ページにコープさっぽろの基本情報・組合員動態・事業所数と形態を載せています。

SDGsBOOK活動報告の見方

本冊子では、2024年度の主だった社会貢献の取り組みを紹介しています。



「もったいない食品」を有効に 児童養護施設へ食品提供 「トドックフードバンク」

食品ロスの問題解決とともに子どもたちへの支援を目的として2016年5月5日、トドックフードバンクがスタートしました。この取り組みでは、宅配トドックで受発注ミスなどにより返品された「もったいない食品」を道内の児童養護施設22施設・児童自立支援施設1カ所・ほか5団体へ提供しています。



2024年度提供金額

9654万4405円（28施設）

（累計5億2944万9957円／2016年～）

SDGsのどれに貢献しているのか



どのような課題に基づいた取り組みか

取り組み内容

取り組みの規模・貢献度の目安となる数字

課題解決へと「つなぐ」取り組み、あなたは1つひとつをどのように思われますか？

コープさっぽろ（生協）と社会貢献について

「どうしてこんなに社会貢献するの？」

その答えは、そもそもコープさっぽろは「社会貢献をするための組織」＝協同組合だからです。

協同組合とは？

生活協同組合をはじめ、農業協同組合や漁業協同組合、森林組合などが日本の代表的な協同組合です。また、世界にも多種多様な協同組合があり、世界各国の協同組合が加盟する国際協同組合同盟（ICA）では、「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」で協同組合の定義・価値・原則を定めています。（日本生協連訳）

定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人びとの自治的な組織である。

価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

原則 協同組合原則は、協同組合がその価値を実践に移すための指針である。※7つの原則を定めている。



生活協同組合 = 相互扶助の追求

出資者の視点

それはどれだけ人のためになりますか？

「社会貢献」をすることで出資者が認めてくれます。

※相互扶助とは／社会・組織の構成員同士が互いに助け合うこと。

対して「会社」とは？

事業を行うことで「利益を追求」。株主へ利益を還元する、また納税することで貢献します。株主は「それは利益が出るか？」という視点で経営を見ている。社会貢献はあくまで経営を圧迫しない範囲でなければなりません。

全国最低の健診受診率向上を目指す ▶▶▶

医療連携事業 健康診断

特定健診受診率 ワースト5

北海道	46.6%
和歌山県	48.8%
長崎県	49.7%
奈良県	50.0%
沖縄県	51.2%

特定健診受診率 トップ5

東京都	72.9%
山形県	67.5%
富山県	63.3%
宮城県	62.4%
新潟県	62.4%

全国平均 57.8%

厚生労働省
「令和4年度都道府県別特定健康受診率」より

地域生協では全国初健康診断事業に参入

平均寿命が延びて「人生100年時代」ともいわれる現代において、健康で自立して過ごせる期間である健康寿命の重要性が高まっています。しかし、左に示す通り、北海道の特定健診受診率は全国最下位（1位は東京都）で、特に女性の受診率の低さが課題となっています。

全道200万人の組合員さんに支えられるコープさっぽろは、北海道の医療に貢献したいという思いから、2023年3月に医療連携事業部を設立しました。

医師をはじめ、看護師や放射線技師などを採用し、「コープさっぽろ健診室」を開設。さらに健診車を導入し、店舗や宅配センターなど全道の事業所を拠点とした「巡回型健康診断」を実施できる体制を整えました。

2024年度は、組合員さんへの本格的な健診サービス導入を前に、コープさっぽろの職員を対象として巡回健診を実施しました。店舗、宅配センター、製造工場、物流センターなど、道内全175カ所の事業所を健診車と医療チームが巡回し、1年間で延べ8941人が健診を受診しました。

全事業所で自前化健診を実現

特集1 民間行政が地域を変える

北海道の医食住を支える生協へ

加速する人口減少、削られる地域の活力。

経済合理性のもと、商店は撤退し、病院は閉鎖。

老朽化した給食センターの建て替えも棚上げのまま。

私たちの未来は、決して明るいとはいえないでしょう。

それでも、コープさっぽろはあきらめません。

健康に不安があるなら、巡回健診をはじめよう。

給食が届かないなら、温かいランチを届けよう。

地域に愛着を持ち、暮らし続けたいと願う人がいる限り

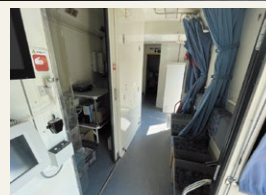
私たちは考え続けます。

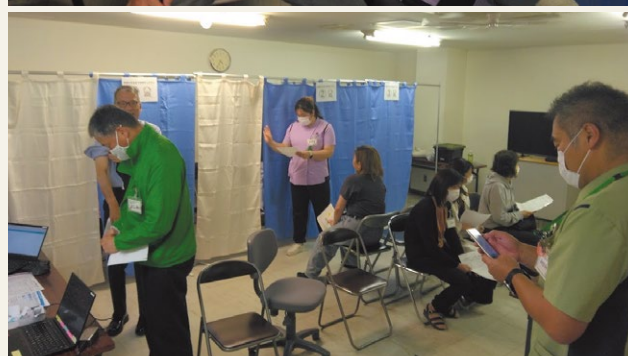
明日のために、今できることを。



2024年度健康診断実施事業所数・受診人数

175カ所・8941人





「予防接種のハードルも下げた」
「インフルエンザワクチンの接種は、毎年冬になると『やらなければ』と思うながらも、事前予約の手間や、医療機関での待ち時間、感染への不安を考えると、つい億劫になりがちです。そこで医療連携事業部では、健診同様、

「い」という思いから、予防接種事業を開始しました。2024年度はコープさっぽろの職員を対象にインフルエンザワクチンの接種を実施。10月中旬から2025年2月にかけて、医療連携事業部の専任スタッフが各地の店舗や宅配センターを訪問し、空きスペースを活用した臨時の出張接種会場を開設。延べ1500人が予防接種を受けました。

予防接種の体制が確立できたことから、2025年度は組合員さん向けにもインフルエンザワクチンの接種を予定しています。道内各地の店舗や宅配センターを拠点に、10月中旬から翌年2月まで医療連携事業部のスタッフが巡回し、予防接種を実施する計画です。組合員さん及び職員を合わせ、約1万人の利用を見込んでいます。

インフルエンザワクチンの職域接種も自前化



2024年度インフルエンザワクチンの職域接種利用者

約1500人 (2024年10月中旬～2025年2月下旬)

進む!医療連携

社会医療法人孝仁会と包括連携協定を締結

2024年7月1日、コープさっぽろは社会医療法人孝仁会と包括連携協定を結びました。これにより健診で治療が必要となった場合の受診者の受け入れや、巡回健診に関する医師・医療スタッフの派遣など、釧根地域における医療連携の充実が期待できます。

また2025年2月28日には日本赤十字北海道支部と、さらに3月10日には社会医療法人禎心会と、それぞれ包括連携協定を締結しました。今後も医療機関との連携強化を進め、健診事業のスキームの確立を図る考えです。



オールコープで健診に1+αの価値を
2025年度には組合員さん向けの健診がスタートします。店舗や宅配センター、地域の集会所などへ健診車が巡回して健診を実施(予約制)。7月をめどに健診車を新たに2台追加し、医師やコメディカル人材を増員する予定です。一般的な健診に加え、骨密度検査や、血液検査によるがんのリスク検査など、

「組合員さんにとって、利便性向上が最大のメリット」と話すのは医療連携事業部の小濱貴洋部長。「お買い物ついでに健診が受けられるとなれば、健診に対する心理的負担はかなり軽減されるでしょう。将来的にはコープさっぽろのポイントがたまったリ、ポイントを健診に使

えるようにしたい」と語ります。また、従来のコープさっぽろの事業と健診をつなぐことで新たなサービスが生まれる可能性もあります。例えば健診結果に基づいてその方に合ったお買い物を提案したり、配食の献立を組むことも。食品メーカーと連携してヘルスケア商品を共同開発することも夢ではありません。健診結果を基に「まる元」で効果的なフレイル予防を行うこともできるでしょう。

さらに、市町村と連携して住民の集まる場所へ健診車が出張したり、大学と連携してキャンパスで学生向けに健診を行うことも視野に入れています。「究極の目標は健診のラストワンマイルの追求です。道内全域で気軽に健診が受けられる環境を整備して健診のハードルを下げたい」と小濱さんは話します。北海道のどこに住んでも、健康に暮らし続けられる社会の実現に向けた挑戦が始まっています。

診療内容 健康診断コース

定期健診
(安衛則第44条)

雇用時健診
(安衛則第43条)

生活習慣病
予防健診
(協会けんぽ)

特定
健康診査
(後期高齢者
健診含む)

各種がん検診
(胃がん、肺がん、大腸がん、
胃がんリスク判定、
前立腺がん検査)



お買い物ついでに健康診断

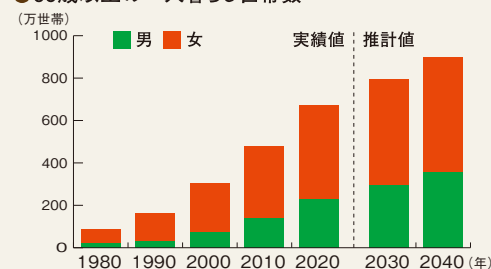
増える一人暮らし、高まる孤独死の不安を解消 ▶▶▶

高齢者見守り協定

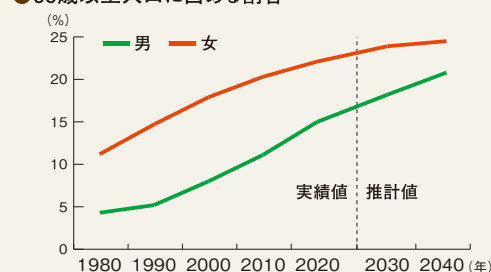


2024年3月に神恵内村と高齢者見守り協定を締結し、未締結自治体は残り3町に

●65歳以上の一人暮らし世帯数

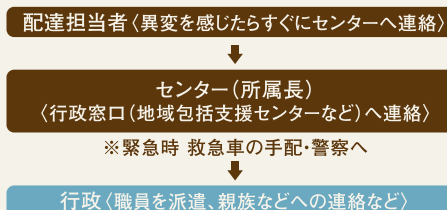


●65歳以上人口に占める割合



※内閣府「高齢社会白書（令和5年版）」より

●見守りフロー

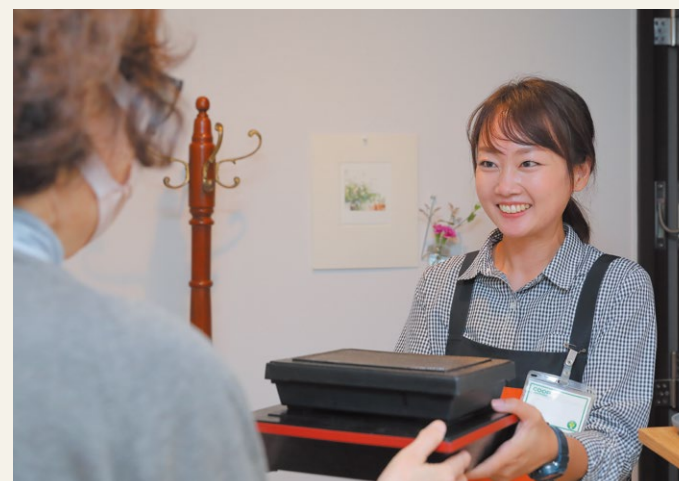


自治体との連携で緊急時のフロー確立

内閣府は、2040年に65歳以上男性の5人に1人、女性は4人に1人が一人暮らしになると推計しています。高齢者が社会から孤立することで、孤独死のリスクも高まります。コープさっぽろは道内各自治体と連携し、宅配トドックや夕食宅配サービスを通じて、高齢者の見守りを行っています。現在は、道内176市町村との間で、高齢者見守り協定を締結しています。

自治体との連携で見守り強化

「見守りの目が増えることは自治体にとって大きなメリット」と話すのは江別市から出向中の海谷祐二朗（地域政策室）。「毎週同じ曜日同じ時間で接点を持つ担当者だから少しの異変に気づくことができます。自治体それぞれ置かれている状況や課題は異なりますが、協定締結が、見守り活動を含め、みんなで地域をよりよくするために考えるきっかけになれば」と語ります。



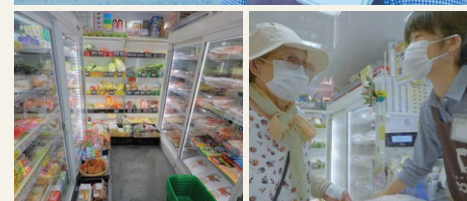
高齢者見守り協定締結市町村数・2024年度発生対応件数

176市町村・215件

（累計1842件／2010年～）※異変を感じて対応した件数

増えていく買い物困難者を支援 ▶▶▶

移動販売車 おまかせ便カケル

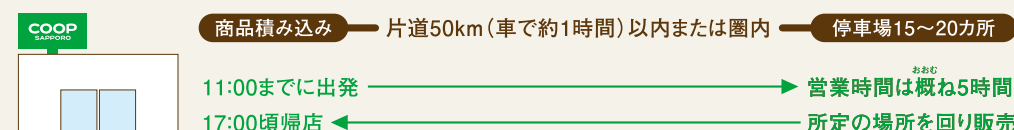


全国初のATM搭載車

22年10月より苫小牧信用金庫のATMを搭載したカケルが、平取町・むかわ町穂別地区・厚真町・日高町日高地区で運行。ATMは店頭と同じ機能を持つ「多機能型」で、物販車にATMを搭載するのは全国でも初めてです。



カケル運行モデル（目安）



運行エリアとカバー率

137市町村・エリアカバー率 77%

2024年度延べ利用人数

86万人

137市町村で97台が運行中

決まった曜日・時間にコースを巡回

北海道の過疎地域で暮らす「買い物困難者」を支援するため、2010年にスタートした移動販売車おまかせ便カケル（以下カケル）。店舗から約1000品目の商品を積み込み、毎週同じ曜日・時間帯に所定の場所へ訪れます。顔なじみの関係を大切に、欲しいものをお聞きして次回にお届けする「御用聞き」や地域の見守りにも取り組んでいます。

自治体と連携しカケル運行が実現

コープさっぽろは長万部町、黒松内町、豊浦町の「はしっこ同盟」と23年に包括連携協定を締結。カケルが停車場で十分な販売時間を確保するには「店舗から片道50キロ圏内」が原則ルールですが、長万部町、黒松内町が高速道路料金を負担することで両自治体への運行が始まりました（豊浦町は以前から運行）。自治体と初めての協同体制で、運行が実現したのです。

コープさっぽろだて店との距離

黒松内町約64km
（高速道路約63km）

長万部町約58km
（高速道路約66km）

※だて店と各役場までの距離



コープさっぽろ 行政との沿革(2018年～)

コープさっぽろに地域政策室を設置してからの、自治体との主な取り組みをご紹介します。

2018	4月		地域政策室の設置	
2019	7月	さっぽろ連携中枢都市圏	まちづくりパートナー協定	
	9月	北広島市	買い物不便者支援モデル事業に関する連携協定	移動販売車の運行開始、市は広報面で支援
2020	5月	JA幕別町	生活物資供給に関する連携協定	7月からJA事業所前(2カ所)で移動販売車運行開始
	9月	初山別村、留萌振興局	官民連携による地域の食と健康づくりに関する協定	3者協定、11月から“まる元”お試し⇒本格実施
	10月	恵庭市、恵庭市社会福祉協議会	高齢者の買い物支援等に関する協定	
	10月	JAきたみらい	宅配・移動販売の住民説明会	Aコープ閉店に伴う店舗継続要請⇒宅配・移動販売へ
	11月～	札幌市	自宅療養セットの配送	2021年3月末まで 計1287セット配送
2021	2月～	小樽市	自宅療養セットの配送	2023年5月7日まで 計3156セット配送
	2月	函館市	自宅療養セットの納品	120セット納品
	4月	ほっかいどう若者応援プロジェクト	支援物資提供	5大学の生協を通じて学生へ生活支援物資提供
	6月	網走市	包括連携協定	
	9月	様似町	包括連携協定	
	9月	様似町	スクールランチ開始	全道初の事例
	11月～2月	HIECC(ハイエック)	外国人緊急支援プロジェクト	道内在住の外国人への食品等提供
	10月	北海道(環境生活部)	詐欺被害防止チラシの作成	移動販売車で個別配付
	11月	幌加内町	PB商品開発	3セクで製粉したそば粉を使用したゆでそばの製造販売
	11月	広尾町	サンタカード	周知、内部取りまとめ
2022	4月	初山別村	スクールランチ開始	2例目
	4月	愛別町	スクールランチ開始	3例目
	7月	北海道(環境生活部)	店舗での特殊詐欺警戒啓発	にしの店、新道店、元町店
	7月	北海道(環境生活部)	食べフェスでの特殊詐欺警戒啓発	
	8月	江別市	総合防災訓練の協力	展示ブース、車両展示
2023	7月	はしっこ同盟	包括連携協定	長万部町、黒松内町、豊浦町
	8月	西興部村	高齢者見守り協定	175市町村目
	9月	(株)良品計画	ファンミーティング@きたひろしま店	北海道初のファンミーティングをコープとコラボ開催
	10月	雨竜町	自治体要請に基づく移動販売車運行	
	11月	長万部町・黒松内町	自治体の一部負担による初の移動販売車運行	
	12月	大樹町	包括連携協定	
2024	2月	江別市	魅力あるまちづくりに関する連携協定	江別市、JR北海道、コープさっぽろの3者協定
	3月	神恵内村	高齢者見守り協定	176市町村目
	4月	共和町	まる元運動教室開始	
	5月	苫小牧市	公共施設の太陽光発電PPA開始	
	5月	大空町	自治体要請に基づき大空高校寮への移動販売車運行	
	7月	札幌市ほか	クーリングシェルトアの指定	
	12月	当麻町	再生可能エネルギーの活用に関する連携協定	
2025	3月	留萌市	くらしを支える食の提供に関する相互協定	
	4月	留萌市	スクールランチ開始	4例目
	4月	むかわ町	包括連携協定	
	4月	興部町、興部町商工会、興部町学校給食物品納入組合、北見信用金庫興部支店	包括連携協定	



2024年4月共和町
まる元運動教室開始



2024年5月苫小牧市
公共施設の太陽光発電PPA開始

コープさっぽろ 地域政策室とは

北海道の課題解決に取り組むため、もっと自治体と連携して取り組めるよう2018年4月に設置。専務理事直結で、自治体からの出向者をこれまでに7名受け入れている。道内の自治体を訪問し、現状と課題を把握。そこでコープさっぽろが協力できることの事業化を次々に進めている。

特集1 CASE 4



子どもたちにあたたかい昼食を届けたい▶▶▶

スクールランチ



スクールランチは2025年4月現在、様似町・愛別町・初山別村・留萌市の小中学校で提供。ある日の愛別小学校は、子ども達に人気の温かいクリームシチューと揚げパン、さくらゼリーでした

スクールランチ事業実施市町村数・2024年度昼食配膳数

3町村・8万9847食

(累計29万4482食／2021年9月1日～2025年2月28日)

社会貢献動画



留萌市小中学校でも提供スタート

留萌市の7校へ
25年4月から配送開始

2021年9月に、様似町を皮切りにスタートした「スクールランチ」。25年4月には留萌市の小学校5校、中学校2校へ提供を開始。留萌市にある給食センターが、老朽化により維持が難しくなり、コープさっぽろが同センターを購入。コープフーズ留萌工場として、そこから各学校へランチを配送します。中西俊司

市長は「民間活力を生かす『留萌モデル』として新たな給食事例の参考になれば」とお話しくださっています。

温かいまま配送 食物アレルギーにも対応

コープさっぽろの関連会社であるコープフーズは、全道各地で幼稚園給食や組合員向け配食、施設や病院、保育園調理など多数の食事提供を受託。そのノ

ウハウを生かすことで、たとえ長距離でも、トラックに加温庫を積載して料理を温かいまま届けることができます。またスクールランチ利用者には随時アンケートを取り、いただいた意見を参考に改善を重ね、献立も年々バリエーションが増えレベルアップ。実際9割以上の生徒が利用しています。さらに「もっと喜ばれるランチにしたい」と22年4月からはアレルギー代替食にも対応し、進化は続いています。

食育の取り組み

「食育」にも積極的に取り組んでいます。たべものだより発行や栄養士による食育授業も実施。またなるべく現地の食材を取り入れて調理し、“地産地消”の大切さを伝えています。

人口急減時代の生活協同組合に求められること

国民の5人に1人が後期高齢者となる2025年。人口急減時代の到来は、目の前に迫っています。昨今、地方では税収減や人手不足の影響で行政サービスが十分に行き届かないという実態も浮き彫りになっています。こうした地域課題が山積する中で生協に求められるものとは何でしょうか？日本の生協を管轄する厚生労働省の小野博史さんとともに考えます。

厚生労働省
社会・援護局地域福祉課
消費生活協同組合業務室長

小野 博史
おの ひろし

生活協同組合
コープさっぽろ理事長

大見 英明
おおみ ひであき



地域共生社会を担う存在へ

大見 本日はよろしくお願います。早速ですが、2025年度内には北海道の人口が500万人を切ると予想され、人口減少問題はいよいよ待ったなしの状況ですが、国はどのようにみえていますか？

小野 日本の総人口は2018年の1億2808万人をピークに減少へと転じ、50年後の2070年には9000万人を下回ると推計されています。特に、生産年齢人口（15〜64歳）は2020年の7509万人から、2070年には約4割減の4535万人になる見込みです。世帯類型をみると、2020年の単独世帯数は2115万世帯で、世帯総数の約4割を占めています。高齢化や未婚率の上昇により、今後も高齢者を中心に単独世帯が増えると予想されます。こうした中で、これまで地域や企業、家族が担ってきた「支え」の役割を代替する機能が、社会全体として求められてきています。

厚生労働省はこうした状況を踏まえ、〈地域共生社会〉の実現を目標としてさまざまな施策に取り組んでいます。地域共生社会とは、地域住民や地域の多様な主体が支え合う社会です。一方的に「誰かに何かをしてもらう」のではなく、すべての人が地域の課題を〈我が事〉ととらえ、分野を超えてつながり、ときには誰かに支えられる関係の中で地域づくりに参画する。そういった社会のあり方を目指しています。



生協は、全国の世帯加入率が4割に迫り、総事業高は約3・7兆円とされており、日本経済・社会に与える影響や責任は大きなものがあります。民間組織ですが、極めて公益性の高い存在です。なおかつ組合員さんが自発的に出資、参加し誰が必要とする故に誰ともつながりやすい「食」を媒介とする組織ですから、まさに地域共生社会の担い手になりうると、強い期待を抱いています。

〈つなぐ〉を合言葉に地域課題の解決を図る

大見 コープさっぽろは1998年に経営破綻しますが、そのときに組合員さんが出資金を引き出すことなく、応

援してくださったことで生き残ることができました。そこで私たちは創立50周年を迎えた2015年に〈つなぐ〉を合言葉に掲げ、〈人と人〉〈人と食〉〈人と未来〉をつなぎ、北海道の問題を解決することを事業テーマに設定しました。北海道には179市町村がありますが、人口5000人以下のまちが88あり（※）、こうした地域においては行政サービスが十分に機能しづらくなっています。私たちコープさっぽろは、道内全域に108の店舗と52カ所の宅配拠点を配置し、その上、物流事業などを自前でやっているため、これらをつなぐことで市町村の枠組みを超えたサービスの提供が可能となります。例えば2021年に様似町でスタートしたスクールランチは、スーパーマーケットの仕入れ基盤と食品製造、配食という私たちのリソースをつなぎ合わせることで、市町村の給食センターよりも価格を抑えて温かいランチを届ける仕組みを構築できました。

地域が存続するためには、食、医療、交通の課題を解決する必要があります。私たちはこれまで、食のプラットフォーム化を目標に掲げ、宅配ドック、移動販売車、配食サービスを整備する中で、ほぼそれを達成できました。次は医療ということで2023年に医療連携事業部を立ち上げ、健診の自前化を進め、2025年度から組合員さん向けの健診サービスを開始します。また現在、地域における相互扶助型の交通体系を築くための準備を進めています。



小野 博史さん

1970年生まれ、静岡県出身。1993年厚生省（当時）入省。介護、障害者福祉、地域福祉など福祉分野の業務に従事。社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室長（2024年4月就任）をへて、2025年4月より社会・援護局福祉基盤課長。

※所属・役職はインタビュー当時のものです

地域政策室は 現代版ご用聞き

小野 私がいいなと思うのは、コープさっぽろの中に地域政策室を設置されていることです。地域政策室の皆さんが道内の自治体を精力的に訪問し、市町村長や各担当者から地域課題のヒアリングを行っているそうですね。

大見 はい。私たちは2018年の北海道胆振東部地震の際に市町村との連携の難しさを痛感し、普段から自治体との窓口づくりをしておく必要があると再認識しました。

小野 地域生協自体の所管は都道府県で、どの生協も普段から都道府県レベルとのおつきあいはあるのかと思いますが、実際、地域の課題は市町村によって違いますし、それを把握するには市町村とのパイプが重要です。近年、福祉の世界では、①誰でも分かる「支援窓口の設置」、②待ちではなく支援者側から出向く「アウトリーチによる支援」、③必要に応じて継続的に寄り添う「伴走型支援」が

大切であるといわれますが、コープさっぽろの取り組みはまさにこれと同じで、支援を必要とする人（自治体）の小さな声まで聞き取り、その人とともに解決していこうという、大変意義深く効果的なアプローチをされています。

参加で成り立つ エコセンター

小野 コープさっぽろの事業の中で特に感銘を受けたのが、エコセンターの取り組みです。エコセンターでは組合員さんから回収した資源物を処理してリサイクルにつなげていますが、年間3億円もの利益が出ていると知って驚きました。その要因は、「組合員さんが、トレーはきれいに洗って種類ごとに分け、廃食油は指定通り500mlのペットボトルに入れて出してくれる。このことでエコセンターでの労力が省けている」からだと聞きました。これは本当に生協でなければできないことです。組合員さんが運営に参加し、商品づくりに

参加し、最後は資源物を回収するところまで責任を持って参加する。しかもその利益を、自分たちに還元するのではなく、子育て支援に回している。この循環はまさに、「人へ人」「人と食」「人と未来」を体現する事業であると感動しました。

ほかにも、移動販売車事業ではただ買い物困難者対策で車を走らせるのではなく、損益分岐点を意識して事業を成り立たせていたり、スクールランチでは弁当を提供してほしいという自治体の要望に対して、温かいランチを提供するための仕組みづく

小さな声に 耳をすます

りを工夫したり。私も全国の生協の取り組みをみてきましたが、ここまでできている生協はなかなかありません。今後、全国の生協が人口減少の問題に直面することになると思いますが、ぜひコープさっぽろのような形で地域の期待に応えてもらえたらいいと思います。

一人ひとりの参加が 北海道の未来を照らす

大見 小野さんは今の部署に就いたときに、コープこうべの創設に尽力した賀川豊彦の本



を読んだと聞いています。

小野 はい。私は昨年（2024年）4月に消費生活協同組合業務室の室長を拝命しました。着任後、生協について説明を受け、法律にも目を通しました。でも、なかなか実感が湧くというか、腑に落ちるということがなかったんです。あるとき、棚にあったこの本（賀川豊彦『協同組合の理論と実践』）を見つけた。読み始めると、生協に対する考えが変わるというか、心を揺さぶられるものがあつたんです。例えば、賀川はこう書

協同組合は 精神運動であるから 指導者と組合員の 美徳が進めば進むほど 成功する



「生活協同組合の父」と呼ばれる賀川豊彦

もちろん生協は、組合員さんのくらしを支えること、経営事業体として自立していることが求められます。しかし、生協は、ただ食品を扱う小売業じゃないですね。職員の皆さんと組合員さんの関係は、「売る人／買う人」という側面はありつつも、根本的には精神運動である、と。先程のエコセンターの例がまさにそうですが、組合員さんはただモノを買うだけでなく、買う前段階の生産者のことを考え、買った後の最

終処分のことまで責任を持つ。そういった美徳のもとで事業が成り立っているんです。一方で職員の皆さんも、日々、組合員さんに触発されながら、美徳を磨いてお仕事の当たられている。この両者の関係性が、生協の本旨なのだと気づきました。



大見 賀川豊彦が説いた「協同組合の中心思想」の一つに「人格経済」という言葉があります。人間を尊重した経済社会を目指すというのが、生協の基本的な考え方です。協同組合は座して与えられるものではなく、組合員さんが自ら参加し、その主体となる「参加型民主主義」なんです。われわれのような専従者と組合員さんが、人間的に高め合う中で組織が強くなるということを賀川は述べています。賀川の人格経済という考えは、日本が縮小して

「縮小」から 「縮充」へ

2016年に書いた『縮充する日本「参加」が創り出す人口減少社会の希望』という本があります。『縮みながら充実させて、質感が良く暖かい地域社会』を山崎さんは「縮充」と呼んでいます。必ずしもバラ色とはいえない未来を前に、私たちが目指すべきは、まさにこの「縮充」であると考えています。山崎さんは『人々の主体性を伴った参加なくして「縮充する未来」はありえない』と書きます。社会が縮小する今、「誰かに頼ればいい」のではなく、一人ひとりが考えなければならぬ局面に入っています。「この案件は行政、これは民間で」と区分けせず、お互いにできる

ことを持ち寄って地域の中で「たすけあう」「ささえあう」。コープさっぽろはその「つなぎ役」となりながら、共助の場をつくり、広げる。それが他者に対する支援を誘発する契機になり、地域の持続可能性が保たれるのだと思います。その場づくりや枠組みづくりを、今年（2025年）から本格的にやろうと考えています。

小野 素晴らしいと思います。コープさっぽろは今年、60周年を迎えられましたけれども、70年、80年、そして100周年に向けてコープさっぽろがさらに発展し、北海道がより良くなっていく。また、このような取り組みが全国に広がり、社会がつくられていったらいいと期待しますし、私も微力ながら何ができるか考え、実践していきたいと思います。

大見 本日はありがとうございました。



今回の
対談の模様を
動画で配信
しています

トドックフードキャラバン

児童養護施設へ食育を届けるキャラバン

2024年度訪問数 **9回**
(累計73回／2016年～)

2024年度参加人数 **101人**
(累計905人／2016年～)

こまるとコープ

2024年度対応件数 **1616件** (累計2359件／2021年～)

トドックフードバンク

提供金額 **9654万4405円**／年
(累計5億2944万9957円／2016年～)

児童養護施設22カ所
児童自立支援施設1カ所
ほか全5団体へ提供

店舗

108店舗
事業高 **2019億8177万円**

コープトレーディング(貿易業)

イタリア生協からの輸入など
商品アイテム数 **238点**

夕食宅配サービス

2024年度利用人数 **1万1250人**
年間提供食数199万3000食
配食車両台数213台

ちょこっと

コープさっぽろ広報誌(食の情報誌)
毎月21日発行
63万部／月

児童会館ランチ

実施市町村数5市2町
実施館数353館
提供累計数 **5万0070食**
(2024年3月21日～25年3月20日)

高校生チャレンジグルメコンテスト

地元食材で開発したレシピで競う
2024年度参加市町村数 **17市町村** (累計46市町村／2013年～)
2024年度参加学校数 **19校** (累計55校／2013年～)

コープの家族葬

全道39式場
2024年度事業高4億1500万円
葬儀件数 **3500件**
(累計8040件／2022年7月～)

認知症予防

認知症の理解と予防のキャラバン
11自治体 **449人** 参加／年
(累計2248人／2019年～)

地域まるごと
元氣アッププログラム

高齢者向け認知症予防プログラム
実施市町村数27市町村
登録者1641名
参加者 **5万3615人**／年
(延べ30万9806人／2018年～)

移動販売車
「おまかせ便カケル」

137市町村 60店舗97台での運行
事業高 **22億3000万円**

宅配トドック

利用世帯数 **48万2589世帯**
物流センター52拠点
事業高1169億円 宅配車両台数1360台

北海道ロジサービス(物流業)

トラック車両台数 **750台**
(江別物流センター1日あたり入場台数)

食べる・たいせつフェスティバル

食育イベント
2024年参加人数 **3万0598人**
(累計34万9074人／2007年～)

農業賞

消費者の立場で北海道の優秀な生産者さん
を応援する賞。4年に一度開催
第12回応募数 **60件**
(累計1322件・累計受賞団体数223件／
2004年～)

スクールランチ

実施市町村数3町村
(様似町・愛別町・初山別村)
2024年度昼食配膳数 **8万9847食**
(累計29万4482食／
2021年9月～25年2月28日)
※現在1日 約500食提供

コープトラベル(旅行業)

年商 **23億4000万円**
店舗数5店舗
(札幌2・苫小牧1・旭川1・函館1店舗)

高齢者見守り協定

176市町村締結(道内全179市町村中)
2024年度発生対応件数 **215件**
(累計1842件／2010年～)

文化教室・貸し教室・文化鑑賞会

文化教室18教室／キッチンスタジオ3カ所
貸し教室32カ所／文化鑑賞会会員684人
事業高 **4億5415万円**
2024年度定期講座受講者数7805人



生産工場

事業高 **251億4190万円**
・コープさっぽろ生鮮PC(畜産、水産)
・コープフーズ(株)
(石狩、江別、配食5工場、社会給食)
・(株)ドリームファクトリー(惣菜、畜産PC)
・(株)札幌駅立売商会(弁売亭)
・北海道はまなす食品(株)(納豆)
・(株)大雪水資源保全センター(水)
・さくら食品(株)(アイスクリーム)
・クレードル興農(株)
(喜茂別工場、伊達工場)
・(株)コスモジャパン(畜産加工)
・(株)アグリテック真狩(農産加工)

畑でレストラン

生産者とシェフと組合員さんをつなぐ
1日限定レストラン。9000円／名
2024年度開催数14回
(累計266回／2010年～)
2024年度参加人数 **661人**
(累計9567人／2010年～)

令和6年能登半島地震及び
能登豪雨災害支援募金

募金総額 **1億7422万2768円**

コープさっぽろ
大学生育英奨学金

100万円／4年を給付
2024年度利用者 **270人**
(累計1872人／2017年～)

2024年度支援額 **6750万円**
(累計4億6800万円／2017年～)



医療連携

2024年度
健康診断実施事業所数 **175カ所**
2024年度
健康診断受診人数 **8941人**

コープパートナーズ

障がい者雇用率 **8.13%**
障がい者雇用人数 **842人**

えほんがトドック

絵本無償配布
2024年度配布世帯数 **1万1027世帯**
(累計14万1196世帯／2010年～)

2024年度配布冊数 **6万1215冊**
(累計64万4287冊／2010年～)

※えほんわくわくキャラバン

2024年訪問数 **185園**
2024年訪問園児人数1万3623人
(累計1458園・12万3830人／2012年～)

トドックエコステーション

環境学習の拠点
見学者数 **1805人**／年
※うち小・中学生12校694人
(累計1万2138人／2017年～)

エネコープ(エネルギー事業)

事業高 **123億7000万円**
営業所15拠点
メガソーラー施設2カ所(帯広)

トドック電力(電気事業)

事業高70億3100万円
2024年度
利用世帯数 **4万4773世帯**
2024年度利用事業所数510事業所

大学連携

・関西大学
・小樽商科大学
・酪農学園大学
・旭川市立大学
・旭川市立短期大学
・室蘭工業大学
・北海道文教大学
・函館短期大学
・札幌大学
・北海道大学
・北海学園大学

店舗連携

・JAみねのぶ(美唄市)
・魚長(函館市・北斗市・七飯町／18店舗)
・ココワ(北竜町)
・フレッシュマーケットしんたに(妹背牛町)

コープさっぽろ事業
MAP

コープさっぽろは多岐にわたる分野で
課題解決へと「つなぐ」事業を実施して
います。主な事業とその規模を一覧
で紹介いたします。

組合員数 (組合員組織率73.29%) ※北海道一般世帯数280万世帯	205万9239人
出資金額	896億円
総事業高	3241億円
店舗事業高	2019億円
宅配事業高	1169億円
共済事業	22億円
その他	30億円
経常剰余	53億円
職員数	1万5864人
※障がい者雇用	8.13%(842人)
※外国人就労人数	425人

2025年3月20日現在

トドックステーション

宅配センター内のコミュニティスペース
全道32カ所(うち店舗併設8カ所)
2024年度利用 **3万9595人**
(累計21万8505人／2016年～)

ファーストチャイルドボックス・
コープチャイルドボックス

育児支援パッケージ無償配布
2024年度お届け **1万1839人**
(累計8万1490人／2018年4月～)
※2024年北海道出生数の50%

エコセンター

総事業高 **5億円**
3万3450t／年間回収量
(累計51万1969t／2008年～)
古着1208t／年間
ペットボトル回収約 511万本／年間

SDGs プラットフォーム

北海道の環境、貧困問題などへの支援を
後押しする産学官協議会
(事務局:コープさっぽろ)

第10回SDGs研究会参加人数 **464人**
(累計2018人・累計開催数10回／2019年～)

コープ未来の森づくり基金

植樹 **4902本**／年間
(累計12万9939本／2008年～)



頼れる人がいない高齢者の力に ▶▶▶ 「こまるとコープ」で 家財・生前・遺品整理もスタート

宅配トドックやタ食宅配サービスを利用している組合員さんを対象にした、個人向け雑事代行サービス事業「こまるとコープ」。近年増えてきたのはご自宅の家具や家財の廃棄相談。それらにお応えするため、札幌市内の対象の組合員さんへ、2024年9月より新たに家財整理・生前整理・遺品整理もスタートしました。



2024年度こまるとコープ対応件数

1616件

(累計2359件／2021年～)



最期の見送りににも生協の安心を ▶▶▶ 「コープの家族葬」 北見・釧路・帯広・網走にエリア拡大!

組合員さんのご要望により、1996年に開始した「コープの家族葬(旧フリエ葬)」。

2021年には「家族葬のウィズハウス(運営:株式会社めもるホールディングス)」と業務提携し、式場エリアを拡大。24年度は北見・釧路・帯広・網走・石狩に新ホールができました。12月には釧路エリア2号店となる葬儀の新式場「コープの家族葬ウィズハウス 星が浦」をオープンしています。



2024年度施行実績・葬儀場数

3500件・全道39式場

(累計8040件／2022年7月～)



観光人材の裾野を広げたい ▶▶▶ 札幌国際大学、札幌新陽高等学校と 「日帰りボランティアツアー企画」

コープトラベルは札幌国際大学、札幌新陽高等学校と共にツアーを企画。同大学の学生が仁木町を訪れ、収穫・手入れ作業を体験すると共に生産者が抱える「収穫時期の人手不足」という困りごとをヒアリング。そこから、ぶどうやトマトの収穫時期にボランティアで収穫する日帰りツアーを考案・実現しました。



ツアー参加人数

45人

(日帰りツアー計2回実施)



高齢者の体力・認知機能の低下を防ぐ ▶▶▶ 高齢者向け運動教室 「まる元」全道展開

地域まるごと元気アッププログラム＝「まる元」は、NPOソーシャルビジネス推進センターがコープさっぽろ、北翔大学と共に、各自治体協力のもと行っている運動教室。「健康運動指導士」のもと、参加者は体力にあわせて楽しく運動しています。最大25人の小クラス制で年48回開催。

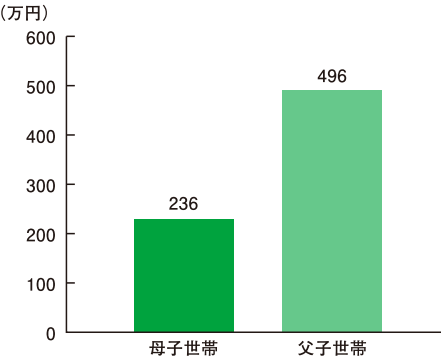


実施市町村数・2024年度参加人数

27市町村・5万3615人

(延べ30万9806人／2018年4月～25年2月現在)

■ひとり親世帯の平均年間就労収入



厚生労働省「令和3年度 全国ひとり親世帯等調査結果」より作成

■母子世帯の収入

平均年間就労収入	236万円
同居家族を含む世帯の平均年間収入	373万円

世帯の平均年間収入は、児童のいる世帯の平均所得を100として比較すると45.9

2024年度に支援した奨学生・支援額

707人・8463万円

(累計4806人・6億2368万円／1989年～)



経済的困窮が引き起こす教育格差 ▶▶▶ ひとり親の高校生への 「育英奨学金」

現在、日本に暮らすひとり親家庭の半数が貧困状態にあり、経済的な不安から進学を諦めざるを得ない子どもたちがいます。公益財団法人コープさっぽろ社会福祉基金は1989年に発足し、30年以上にわたってひとり親家庭や心身障がい児への育英奨学金事業を継続して行ってきました。経済的に就学困難なひとり親家庭の高校生・高専生と特別支援高等部生を対象に返済不要の奨学金月額1万円を卒業までの3年間給付しています。奨学金は個人や法人からの寄付に加え、コープさっぽろ関連会社の経常利益の10%を財源に充てています。



結婚・出産を阻む奨学金返済問題 ▶▶▶ 新入職員の奨学金返済を補助 「職員奨学金返済支援制度」

新入職員が安心して働ける環境づくりを目指し、2019年に職員奨学金返済支援制度を導入しました。大学・大学院を卒業し、新卒入協した職員を対象に、入協3年目までの奨学金返済月額の半分を給与として支給します。返済月額が2万円を超える場合は、本人返済額1万円を上限に、超過分を全額支給しています。

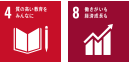


※写真はイメージです

2024年度利用職員数・支援額

49人・40万4995円／月

(累計145人・3496万2096円／2019年～)



学費高騰が少子化・人口減の原因に ▶▶▶ 4年間で100万円給付 「大学生育英奨学金」

学費の高騰などにより、今では大学生の2人に1人が奨学金を利用しています。貸与型奨学金の場合は卒業後に多額の返済を背負うことになり、貧困の連鎖や少子化・人口減を加速しかねません。大学生育英奨学金制度は、コープさっぽろで働く大学生に、返済不要の奨学金を年間25万円、最長4年間給付する制度です。



2024年度の利用者・支援額

270人・6750万円

(累計1872人・4億6800万円／2017年～)



認知症の方の生活を支える ▶▶▶

「認知症の方にもやさしいお店」 札幌市内29店舗が登録

札幌市では認知症の方の生活を支えることを目的に、2024年12月より「認知症の方にもやさしいお店・事業所」の登録制度を開始。コープさっぽろでは日頃から組合員さんが快適にお買物できるよう、お声がけやお困りごとの対応をしてきました。それらが評価され、札幌市内の29店舗が登録されました。



登録店舗数

札幌市内**29**店舗

※2024年12月登録



雇用のバリアフリー化を促進 ▶▶▶

働ける環境を整えて 「障がい者雇用率」8%超え

厚生労働省が定める障がい者法定雇用率は2024年4月時点で2.5%でしたが、コープさっぽろは大幅に超える雇用を実現。店舗や宅配センター、物流センター、食品工場など全道にさまざまな働く場があることを生かし、障がいがある方からの「地元で働きたい」などの希望や、特性にあわせた環境を整えています。



障がい者雇用率・障がい者雇用人数

8.13%・842人

※2025年3月時点 コープさっぽろ障がい者雇用率算定の雇用人数781.0人



1日でも早く日常を取り戻せるよう ▶▶▶

宅配職員が 「能登半島地震への現地支援」へ

能登半島地震を受け、生活協同組合コープいしかわの職員をサポートするため、2024年2月から4月まで宅配事業の支援活動を行いました。コープさっぽろの職員が1週間に2人ずつ現地へ赴き、商品の仕分け作業や配達などをサポート。全国各地からの生協職員が多数活動し、全国のコープの結束力が発揮されました。



支援期間

74日間

(2024年1月22日～4月5日)

支援活動人数

22人



1日でも早く日常を取り戻せるよう ▶▶▶

「令和6年能登半島地震及び 能登豪雨災害支援募金」

2024年1月1日に能登半島地震、9月には奥能登豪雨が起り、甚大な被害をもたらしました。コープさっぽろは、被災された方々が1日でも早く日常生活を取り戻せるよう、日本生協連の「令和6年能登半島地震及び能登豪雨災害支援募金」に賛同し、全店舗、宅配トドック、トドックアプリにて募金活動を行いました。



募金総額

1億7422万2768円

店舗・アプリ／2024年1月9日～3月20日、9月30日～11月30日
宅配／2024年1月22日～4月26日、10月14日～11月29日

店舗で無印良品の商品が買える 全道8店舗で商品販売開始

現在、コープさっぽろ8店舗では、無印良品が隣接またはテナントとしてOPENしています。組合員さんからも好評のため、24年9月から順次、既存店8店舗でも無印良品の商品取り扱いを一斉スタート。人気の商品約900アイテムが店頭に並んでいます。



■無印良品取り扱い店舗

貝塚店・プラザ店・恵み野店・なかしべつ店・さつない店・だて店・ツインハーブ店・余市店

■無印良品隣接店舗

岩見沢南店・ぬまのはた店・しずない店

■無印良品テナント店舗(店舗施設内にある)

やまはな店・そうえん店・ソシア店・藤野店・きたひろしま店

2024年度新規組合員加入者数

4万7709人

(累計組合員数205万9228人) ※2025年3月20日現在



安全・安心な暮らしを支える ▶▶▶

子育て世代にも配慮した 「ぬまのはた店オープン」

北海道でも人口が増えている苫小牧のエリアに2024年11月14日「ぬまのはた店」がオープン。同エリアは特に30代～40代の子育て世代が増えており、また単身世帯の割合も高いことから、それらに向けた商品を強化しています。そのため親子はもちろん誰でも利用できるコミュニティひろば「トドックステーション」を併設。また店舗屋上には、コープさっぽろ店舗の中でも最大規模のソーラーパネルを設置し、店舗で使用する電気の10%～15%を確保。環境にもやさしい店舗になっています。



子どもたちの食の独り立ちを応援 ▶▶▶

食事を作る喜びを伝える 「トドックフードキャラバン」

児童養護施設の子どもたちは最長22歳で退所し、独り立ちをしなくてはなりません。トドックフードキャラバンはフードバンクでつながりのある児童養護施設の子どもたちを対象とした食育プログラムです。コープさっぽろの職員が児童養護施設を訪問し、調理の基本や料理を作る楽しさを伝えています。



2024年度訪問数・参加者数

9施設・101人

(累計73回・905人／2016年～)



「もったいない食品」を有効に ▶▶▶

児童養護施設へ食品提供 「トドックフードバンク」

食品ロスの問題解決とともに子どもたちへの支援を目的として2016年5月5日、トドックフードバンクがスタートしました。この取り組みでは、宅配トドックで受発注ミスなどにより返品された「もったいない食品」を道内の児童養護施設22施設・児童自立支援施設1カ所・ほか5団体へ提供しています。



2024年度提供金額

9654万4405円(28施設)

(累計5億2944万9957円／2016年～)

■第12回コープさっぽろ農業賞 主な受賞者

農業賞	北海道知事大賞	大地のMEGUMI(大空町)
	コープさっぽろ大賞	ベルセゾンファーム・折笠農場(幕別町)
	特別賞	株式会社 渡辺農場(新ひだか町)
		鈴木牧場(広尾町)
審査委員会特別賞	中仙道 怜	
交流賞	札幌市長賞	そばの坂本(幌加内町)
	特別賞	株式会社 満寿屋商店(帯広市)
新規就農者賞	最優秀賞	とくながファーム(千歳市)
	特別賞	VEGGIEHILLS(当別町)
ビジネスモデル賞	最優秀賞	谷口農場(旭川市)



第12回コープさっぽろ農業賞応募数・受賞団体数

応募**60件**・受賞**19団体**
(累計1322件・223団体／2004年～)



高齢者の食事支援と見守り ▶▶▶

おいしい料理をお届け
「夕食宅配サービス」

自宅夕食を作ることが困難な方の食事支援を目的に、2010年に夕食宅配サービスを開始しました。専属の管理栄養士が塩分やカロリー、品目数に配慮した献立を設計。「塩分が低くてもしっかりおいしい」料理を心がけています。顔見知りのスタッフが月曜から土曜までお届けすることで、見守りの役割も果たしています。



2024年度夕食宅配サービス利用者数・食数

年間利用者**1万1250人**・食数199万3000食
(累計14万3400人・2129万3000食／2010年～)



消費者目線で生産者を応援 ▶▶▶

農業賞のつながりを新たな価値に
「第12回コープさっぽろ農業賞」

コープさっぽろ農業賞は「消費者の目線で北海道の優れた第1次産業の生産者を応援する」というコンセプトで2004年に創設されました。以来、野菜や食肉、卵などの生産者を対象に、新たな食の価値づくりや循環型農業など、多くの人に知ってほしい取り組みを実践する生産者を表彰してきました。また、賞の授与だけでなくとどまらず、畑でレストランや、ぶこつ野菜・平飼卵の販売など、さまざまな事業に発展しています。2024年に第12回農業賞が開催され、60件の応募がありました。第13回農業賞は4年後の2028年に実施予定です。



道内どこでも2.5万アイテムが届く ▶▶▶

冷凍品取り扱いを拡大
「宅配トドック」

江別物流センター敷地内に新設されたフローズンセンター(冷凍倉庫)が2024年5月に稼働開始しました。これにより冷凍品の取り扱い商品が700品から1500品目に拡大。5月には保存版カタログ「冷凍品いつでもトドック」の配布がスタートしました。これからもニーズに対応するため、宅配トドックは進化します。



宅配トドック利用者数

48万2589世帯

※2025年3月17日現在



	エリア	会場	開催日	参加人数
1	函館	函館大学	9月14日	2807人
2	苫小牧	北洋大学	9月14日	1910人
3	帯広	十勝農協連家畜共進会場 アグリアリーナ	9月21日	2882人
4	室蘭	日本工学院 北海道専門学校	9月21日	1016人
5	北見	サンドーム北見& サンライフ北見	9月28日	3509人
6	旭川	道北アークス大雪アリーナ	10月5日	4828人
7	釧路	釧路市 観光国際交流センター	11月16日	2264人
8	札幌	大和ハウス プレミストドーム	11月23日	1万1382人



2024年度参加人数

3万0598人(8会場)
(累計34万9074人／2007年～)



生産者を応援!食で地域を元気に ▶▶▶

1日限りのスペシャルランチ
「畑でレストラン」

会場はなんと、コープさっぽろ農業賞を受賞した生産者さんの畑です。北海道で活躍する人気シェフがそこで1日限りのスペシャルランチコースを提供する「畑でレストラン」。食材がとれた畑を歩き、生産者さんやシェフの思いに触れるひととき。地産地消の大切さや、北海道で暮らすことを誇りに思える時間です。



2024年度開催数・参加人数

14回・661人
(累計266回・9567人／2010年～)



食育・環境・暮らしの関心を高める ▶▶▶

「食べる・たいせつ
フェスティバル2024」
道内8地区で開催

「食べることのたいせつさ」を楽しく学べる、入場無料の大型食育イベント「食べる・たいせつフェスティバル」。2007年にスタートし、「食」はもちろん「環境」や「くらし」にもつながる、さまざまなテーマの体験プログラムが用意されています。コープさっぽろのブース以外にも、道民になじみの深いメーカーさんや学校のブース、地元で取れた新鮮な野菜の販売、子どもたちが宅配やレジ打ちにチャレンジできるおしごと体験も人気です。大人から子どもまで楽しめる内容は、年々進化しています!



道内での道産品販売を拡大 ▶▶▶

「北海道どさんこプラザ」
かしわ店・東光店内にオープン

コープさっぽろは北海道と、食の販路拡大に関する包括連携協定を締結しています。北海道内での道産品販売を拡大するため、店舗内に「北海道どさんこプラザ」を誘致。倶知安店、湯川店に続き2024年11月29日帯広のかしわ店、2025年2月27日旭川の東光店にもオープン。道内の名産品をお店で購入できます。



コープさっぽろ店舗内どさんこプラザの店舗数

4店舗
(倶知安店・湯川店・かしわ店・東光店)



おいしい・安心・お手頃な商品を ▶▶▶
プライベートブランド(PB)
「なるほど商品」シリーズ

安全・安心な商品の提供にこだわり続けるコープさっぽろが、シンプルと良質、そしてできる限り北海道製造で作る「なるほど商品」。各商品の特長を、そのまま長い商品名に込めています。また通常は小さく表記される栄養成分表示が、あえて目立つ位置に大きく配置されているのも、消費者の視点に立った配慮です。



商品アイテム数・2024年度商品供給額

238点・81億7880万円

※2025年3月現在



「工場できたてアイス」のおいしさを ▶▶▶
北海道素材にこだわる
「さくらICE CREAMERY」オープン

コープさっぽろの関連会社・さくら食品株式会社は創業から63年、道産素材にこだわってアイスを作り続けてきました。2024年6月28日、同社工場直営のブランドショップ「HOKKAIDOさくらICE CREAMERY」がオープン(小樽市奥沢1-21-15)。従業員のみが知る「工場できたてアイス」のおいしさを味わうことができます。



直営店販売個数・商品供給額

8428点・348万6120円



調理時短ニーズの増加 ▶▶▶
店内で手作り
「大惣菜化プロジェクト」

北海道の平均世帯人数は2.18人で、札幌市の単身世帯は全世帯の40.8%。共働き世帯も増加し、調理時間は明らかな減少傾向にあります。2020年2月に始めた「大惣菜化プロジェクト」は、お店の生鮮素材を使い、“おいしいこと”を追求し店内で手作り。取り扱い店舗は年々増え、新商品も続々登場しています。



商品アイテム数・2024年度商品供給額

368アイテム・36億6930万7210円

(農産・水産・畜産・デリカ計)



安全・安心な食を支える ▶▶▶
組合員さんと共に作った
「北海道産とうきびアイス」発売

コープさっぽろ初の試みとして、組合員さんと一緒に商品を開発。北海道らしい農産物を生かしたアイスにしようと試作を重ね、粒の食感がしっかりと感じられる「北海道産とうきびアイス粒入り」を2024年5月に発売しました。とうきびの甘さはもちろん、「黄金そだちの別海牛乳」の濃厚さも楽しめます。



販売数・商品供給額

2万点・496万円



高校生へ食の大切さを伝える ▶▶▶
高校生×食農体験
「アニマドーレ」

コープさっぽろが応援する「アニマドーレ」は、高校生が食や農にふれながら、将来の生き方や働き方を考える食農教育&キャリア探究プログラムです。農作業体験や農家訪問バスツアー、農産物販売体験など、多彩な体験活動を実施しています。活動開始から10年。札幌市立高校学校間連携プログラムに指定されています。



2024年度参加校数・参加人数

5校・30人

※参加校／市立札幌開成中等教育学校(後期課程)、市立札幌新川高等学校、市立札幌清田高等学校、市立札幌藻岩高等学校、市立札幌大通高等学校



保護者の家事負担を軽減 ▶▶▶
長期休暇に昼食提供
「児童会館ランチ」

学校給食がなくなる夏休みや冬休みの間、児童クラブを利用するには通常、保護者がお弁当を用意します。その負担を軽減するため、コープさっぽろは自治体などからの委託を受けて、夏休みに札幌市・北広島市・旭川市の児童クラブへ昼食提供を行いました。冬休みには苫小牧市、小樽市、池田町、当別町にも拡大しました。



2024年度実施施設数・注文数・市町村数

353館・5万0070食(5市2町)



食を通して郷土を知る、社会を知る ▶▶▶
「高校生チャレンジ
グルメコンテスト」

高校生がオリジナル商品を考案し、調理して、発表するコンテストです。各地の食文化や食材を研究・発掘し、地域の企業や行政と協力して「わが町グルメ」を開発します。第12回大会(2024年度)のチャレンジグルメ大賞は北海道静内農業高等学校が受賞。コープさっぽろ賞には北海道帯広農業高等学校が選ばれました。



2024年度参加市町村数・参加高校数

17市町村・19校(36チーム)

(累計46市町村・55校／2013年～)

食のプロを目指す高校生を応援 ▶▶▶
全国高校生料理選手権
「うまいっしょ甲子園」

食のプロを目指す全国の高校生が2人一組で調理の腕を競う「うまいっしょ甲子園」。コープさっぽろは特別協賛として同大会を支援しました。また、新たに「コープさっぽろ賞」を創設。受賞作品はコープさっぽろプロデュースで商品化します。2024年度は熊本県の慶誠高等学校がコープさっぽろ賞を受賞しました。



2024年度参加校数

18校応募・8校本選出場



↓ 得た利益は子育て支援に! ↓



ファーストチャイルドボックス(FCB)



2024年度エコセンター総回収量
3万3450t
(累計51万1969t／2008年～)

2024年度FCB・CCBお届け数
1万1839人
(累計8万1490人／2018年～)



資源回収が子育て支援に ▶▶▶
宅配資源回収便・食器回収スタート
「エコセンター」

コープさっぽろのエコセンターは、店舗や宅配で回収した資源物を圧縮・加工して販売、その利益を100%子育て支援に充てています。これにより「えほんがトドック」(P30参照)や、第1子ご出産予定の方へ無償で贈る「ファーストチャイルドボックス(FCB)」、第2子以降の方への「コープチャイルドボックス(CCB)」などが実現。24年より食器・調理器具類も宅配の資源回収便で回収可能になり、また店舗でも古紙回収ができる「トドックエコサイクルボックス」を帯広地区、旭川地区、函館地区、苫小牧地区の計15店舗に設置して古紙類の回収を開始しました。



電気料金の削減や環境負荷の低減 ▶▶▶
家電別の電力使用状況見える化
サービス開始「トドでんAI」

トドック電力では、AIを活用したサービス「トドでんAI」を2024年11月1日に導入。トドック電力利用の組合員さんが対象で、これにより家庭内の電力使用状況が5種類(冷暖房、冷蔵庫、待機電力、照明、その他機器)のカテゴリ別に把握でき、具体的な節電の提案も受けられ電気料金の削減につながります。



地産地消再生可能エネルギーの普及 ▶▶▶
苫小牧市×エネコープ
「市有施設太陽光発電事業」開始

苫小牧市の市有施設の屋根、敷地などを活用したPPA方式※による太陽光発電設備の導入。エネコープは4施設への導入事業者として特定され、同施設での発電・電力供給を開始しました。これにより苫小牧市は初期投資不要で各施設の脱炭素化を推進するとともに電気料金の軽減も実現できます。



苫小牧市で2025年1月までの供給電力・削減したCO₂排出量
約39万5000kWh・約21万t-CO₂
※Power Purchase Agreement:電力購入(長期)契約



海洋ごみの約8割は街から ▶▶▶
今度は街だ!初開催
「街のクリーンアップ大作戦!」

海洋ごみの大半は、街から発生しています。日常生活からごみを出さないという、1人ひとりの意識が重要です。清掃活動を日常とし、継続的な街の美化への貢献を目指して2024年10月26日、札幌大通公園を清掃する「街のクリーンアップ大作戦!」を実施。YOSAKOIとの共同開催で、初開催ながら530人が参加しました。



2024年度参加人数・ごみ袋数 (2024年10月26日)
530人・11袋
※45リットル袋換算



プラスチックごみによる海の環境破壊 ▶▶▶
1万人でごみ拾い
「海のクリーンアップ大作戦!」

深刻な海洋汚染に「身近な場所から取り組もう」と、2021年にスタートした「海のクリーンアップ大作戦!」。24年は全道47カ所の海岸(うち河川2カ所、湖1カ所)で2日間にわたり一斉にごみ拾い。コープさっぽろ職員・組合員さんはじめ、多数の企業様や学校様、各自治体にもご参加いただきました。

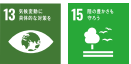


2024年度参加人数・ごみ袋数 (2024年5月15日、5月18日)
1万1416人・4170袋
(累計3万2681人・1万7524袋／2021年～) ※45リットル袋換算



脱炭素化の推進と地域活性化 ▶▶▶
当麻町×エネコープ
「再エネ活用に関する連携協定」

エネコープは当麻町と「再生可能エネルギーの活用に関する連携締結書」を2024年12月25日に締結。再生可能エネルギーを活用した脱炭素化の推進と地域活性化を目的に、当麻町内での再生可能エネルギーの地産地消ほかさまざまな取り組みを実施。北海道における低・脱炭素社会の実現に向けてまいります。



森づくり活動の推進 ▶▶▶
「北海道森と緑の会との
包括連携協定」を締結

公益社団法人北海道森と緑の会は、道内各地で身近な緑の造成や緑の少年団の育成、緑化ボランティアなどに取り組み、豊かな北海道の森林を未来へ引き継ぐ活動を行っている組織です。2024年3月29日、同会と包括連携協定を締結しました。さらに交流を深め、あらゆる取り組みでの連携を考えています。



寄付金額
593万2079円



1 2025年
1～2月

えほん
推薦

よみきかせで1番大好きな
絵本を1冊推薦いただきます

2 2025年
3月

15冊

上位15冊を決定します

3 2025年
4～6月

上手い

上位15冊の中から
最終投票いただきます

4 2025年
10月

王冠

大賞決定！
表彰式を行います

エントリー数
園児さんと先生でえらぶ！
よみきかせ絵本部門

全国 **2330園**
(内、北海道241園)

絵本大好きさんがえらぶ！
よみきかせ絵本部門

全国 **3626件**
(内、北海道880件)



よみきかせのすばらしさを伝える ▶▶▶
“推し絵本”をみんなで選ぶ
「みんなのよみきかせ絵本大賞」

「絵本のよみきかせが好きな人が、今一番よみきかせたい絵本をみんなでえらぶ」をコンセプトに全国の生協と協力してこの大賞を創設しました。「園児さんと先生でえらぶ!よみきかせ絵本部門」「絵本大好きさんがえらぶ!よみきかせ絵本部門」の2部門に分けてそれぞれ投票いただき、大賞を2025年10月に決定し表彰式を実施いたします。



地域に子育てコミュニティスペースを ▶▶▶
親子のあそび場
「トドックステーション」

「子どもを自由に遊ばせたい」というあたりまえの希望がかないにくい昨今。親子で気軽に過ごせる空間を地域に作りたいという思いから2016年にトドックステーションを開設しました。道内各地の宅配センターや店舗などに併設され、無料で利用することができます。親子向けのイベントなども随時開催しています。



全道設置数・2024年度利用者数

32カ所・3万9595人
(累計21万8505人／2016年～)



新1年生の交通事故ゼロへ ▶▶▶
道内各地の新1年生へ
「ランドセルカバー贈呈」

小学校1年生の歩行中の交通事故は6年生の2.9倍(2019～2023年)というデータがあります。新1年生の歩行者デビューを守るため、コープさっぽろは2010年から全道の新入学児童へ交通安全啓発のためのランドセルカバーを寄贈してきました。カバーには「トドック」「カケル」「クルリン」の3キャラクターが描かれています。



2024年度贈呈市町村数・配布枚数

道内 **140市町村**・1万8784枚
(累計31万2644枚／2010年～)



2024年度配布世帯数・累計冊数

1万1027世帯・6万1215冊
(累計14万1196世帯・64万4287冊／2010年～)

2024年度えほんわくわくキャラバン訪問園数・参加者数

訪問園 **185園**・参加者1万3623人
(累計訪問園1458園・参加者12万3830人／2012年～)



大切にしたい親子のふれあい ▶▶▶
「えほんがトドック」
「えほんわくわくキャラバン」

絵本には想像力を育み、親子のコミュニケーションを円滑にする力があります。「えほんがトドック」は、「ずっと親子のたからもの」を合言葉に2010年6月にスタートしました。1～2歳のお子さんがあるご家庭に合計8冊の絵本を無償でお届けしています。また、2012年からは道内の保育園や幼稚園などを訪問し、子どもたちに絵本の楽しさを伝える「えほんわくわくキャラバン」を実施しています。これらの子育て支援活動は、資源回収の利益によって運用されています。組合員さん一人ひとりのエコの実践が、親子のふれあいのひとときにつながっています。



共働き世帯の子育てを支援 ▶▶▶
コープの学童
「トドックキッズクラブ」

コープさっぽろは2025年4月に新たに放課後児童クラブ「コープの学童 トドックキッズクラブ」(しんことに・のっぼろ)を開所しました。コンセプトは「ただいま!」とかえってこれるホッとする場所。生産者交流やおしごと体験、おやつ作りなど、コープさっぽろならではの多彩な体験を通して豊かな人間性を育みます。



申込み人数

30人(2施設)
(しんことに・のっぼろ)



読書推進で子育て支援 ▶▶▶
「リアルと
包括連携協定」を締結

2024年9月4日、コープさっぽろはコーチャンフォーを運営展開する株式会社リアルと包括連携協定を締結しました。この提携により、読書推進を通じた子育て支援や地域貢献活動の取り組みを強化するほか、コープの輸送網を活用した物流効率化、両者のPB商品の取り扱いなど、多方面での連携を推進します。



提携後初のコラボイベント参加者数

380人



DX活用やノウハウ連携で地方創生へ貢献 ▶▶▶
「マクニカ×慈恵会×コープさっぽろ
包括連携協定」を締結

最先端テクノロジーの発掘・提案・実装を手掛ける株式会社マクニカと、先端テクノロジーを活用しながら地域に密着した医療と福祉を実践する慈恵会、コープさっぽろの3者が連携。テクノロジーを活用し、ノウハウを連携することで地方創生へ貢献するために2024年4月19日、包括連携協定を締結しました。



連携強化と地域活性化 ▶▶▶
「コープの家」を整備
東川町へふるさと納税

コープさっぽろは東川町との連携を深め、地域活性化に向けた取り組みとして2024年10月、4000万円の企業版ふるさと納税を行いました。2025年に東川町が農業体験交流施設「コープの家」を整備し、そこを活用した都市消費者との交流などの農業振興事業を推進していただきたいという思いで行われています。



寄付金額
4000万円



CO₂削減とともに北海道の森を守る ▶▶▶
レジ袋辞退が森づくりに
「コープ未来の森プロジェクト」

コープさっぽろのお店でレジ袋を辞退すると0.5円が「コープ未来(あした)の森づくり基金」に積み立てられ、北海道の森づくりに広く活用されています。自治体等と協定を結んで森づくりを進める「コープの森」は道内16カ所にあり、そこで行われる森づくり会には延べ3万人を超える組合員さんが参加しています。



2024年度植樹本数
4902本
(累計12万9939本／2008年～)



多様な人財を採用したい ▶▶▶
内定辞退後も入協可能に！
大学新卒「内定3年保証制度」

多様な人財を採用したいという考えから、コープさっぽろで内定を得た大卒(短大・専門・大学院)予定者は、辞退しても3年間は採用試験を受けずに入協できる「内定3年保証制度」を導入。他企業や団体に就職したり、留学や大学院への進学をしたりした場合でも3年間は内定の権利があります。2025年卒から適用しています。



※写真はイメージです



北海道のSDGs推進の底上げを図る ▶▶▶
最新事例から学ぶ
「SDGs研究会」

北海道SDGs推進プラットフォーム(事務局:コープさっぽろ)は「SDGs研究会」の開催を通じてSDGsの推進を図っています。2024年12月開催の第10回研究会では環境ジャーナリスト枝廣淳子氏による基調講演、SDGs QUEST みらい甲子園2023年度北海道大会受賞校の事例報告などが行われました。



第10回SDGs研究会参加人数
464人
(累計2018人／2019年～10回開催)



霧多布湿原を子どもたちに残したい ▶▶▶
サントリーとの共同企画
「霧多布の自然を守ろう！」

サントリーグループとの共同企画「霧多布の自然を守ろう！」を実施しました。8月26日～9月17日の期間中に店舗や宅配ドックで対象商品を購入すると1点につき1円が霧多布湿原ナショナルトラストに寄付されます。霧多布高校が考案した高校生チャレンジグルメコンテスト受賞商品も対象商品として特別販売されました。



2024年寄付金額
80万2325円
(累計164万9275円／2023年～)



荷崩れや積み直し作業の発生 ▶▶▶
「エルゴローディングシステム」
日本初導入

江別物流センターでは省人化・省力化を目指した長期プロジェクトが進行中です。2024年11月には店舗向け商品の積み付け作業を効率化する半自動化設備「エルゴローディングシステム」を導入。商品をカゴ車に積み付ける際の荷崩れや積み直しが解消され、人時削減と作業者の身体負荷軽減が期待されます。



人時削減率目標
40%



地球温暖化問題と向き合う ▶▶▶
買ってカーボンオフセット
「北海道の森に海に乾杯！」

サッポログループなどのお取引先各社と共同で「北海道の森に海に乾杯！」共同キャンペーンを実施しました。2013年にスタートし、今回で12回目。参画企業各社の対象商品を購入することで、商品に応じたCO₂をカーボンオフセットし、さらに売上の一部は「コープ未来(あした)の森づくり基金」に寄付しています。



2024年カーボンオフセット量・排出権購入額
240t-CO₂・240万円
(累計1895t-CO₂・2615万5000円／2013年～)

環境活動報告

環境理念

コープさっぽろは、組合員さんへの「7つのお約束」を基本にして、組合員さん、役職員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かなくらし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、持続可能な環境保全型の社会づくりを目指します。

7つのお約束

- お約束1・つねに、たしかな商品をお届けして組合員さんに「食の安全・安心」と「より豊かなくらし」をお約束します。
- お約束2・いつも組合員さんの「声」を大切に、組合員さんの願いを実現していくことをお約束します。
- お約束3・組合員さんが「くらしの安心」を願い、互いに学び合い、協同することのお手伝いをお約束します。
- お約束4・誠実に事業を進め、つねに経営を公開し、組合員さんの共通の財産を守っていくことをお約束します。
- お約束5・道内の生協と連帯し、道民生活の向上、道内産業の発展に貢献していくことをお約束します。
- お約束6・地球環境を守り、また福祉・助け合いにあふれた地域づくりに貢献していくことをお約束します。
- お約束7・平和で、人間らしい「豊かなくらし」を実現することにご貢献していくことをお約束します。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムドック・共済などの事業を通じて組合員さんに安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、北海道全体の豊かなくらしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

①事業における汚染の予防に取り組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

②環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。

③この方針を全役職員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。

④この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取り組みについて定期的に公表します。

- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取り組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取り組みます。
- 組合員さんの声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取り組みます。

コープさっぽろの資源回収 | コープさっぽろは、店舗や事業所、組合員家庭から出る資源物をエコセンターで回収しています。2024年度は33,451tの資源物を回収しました。これは21,617tのCO₂削減に相当します。

●エコセンター回収量

	(単位:t)												
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2023年度比
ダンボール	16,870	16,617	16,991	17,602	17,598	17,178	16,799	18,344	18,649	18,168	17,349	16,535	95%
週刊ドック	8,262	8,950	9,948	11,041	12,085	13,788	14,735	14,637	15,573	15,993	14,045	13,294	95%
新聞紙	976	975	983	1,000	954	906	893	704	815	833	686	596	87%
雑誌	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49	89	182%
紙バック	289	292	280	283	276	272	273	274	282	284	270	262	97%
発泡	416	384	411	388	374	374	346	372	351	316	297	276	93%
内袋	128	125	117	116	116	122	123	119	119	122	118	115	97%
ペットボトル	60	58	61	66	47	32	34	42	72	106	160	159	99%
アルミ缶	44	44	46	58	68	62	55	60	61	74	97	88	91%
スチール缶	30	27	18	24	16	14	12	14	17	12	14	8	57%
PPバンド	41	40	42	44	43	34	32	35	33	30	29	27	93%
廃食油	726	773	813	854	866	878	901	933	911	740	644	640	99%
古着古布	—	21	671	728	747	838	970	1,184	1,324	1,295	1,185	1,208	102%
食器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	154	—
合計	27,841	28,306	30,379	32,203	33,190	34,499	35,172	36,718	38,208	37,972	34,942	33,451	96%

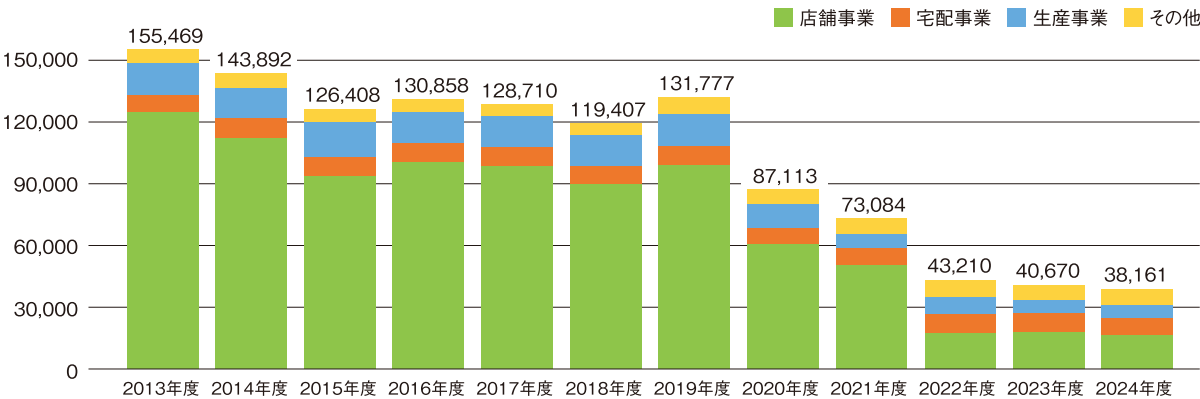
古着回収の売り上げを北海道ユニセフ協会に募金

宅配ドックの資源回収で古着回収を行い、その売上金のうち、2024年度は3,821,112円を北海道ユニセフ協会に募金しました。古着はカンボジアでリユースされるか、または、工業用ぞうきんにリサイクルされています。

環境データ報告

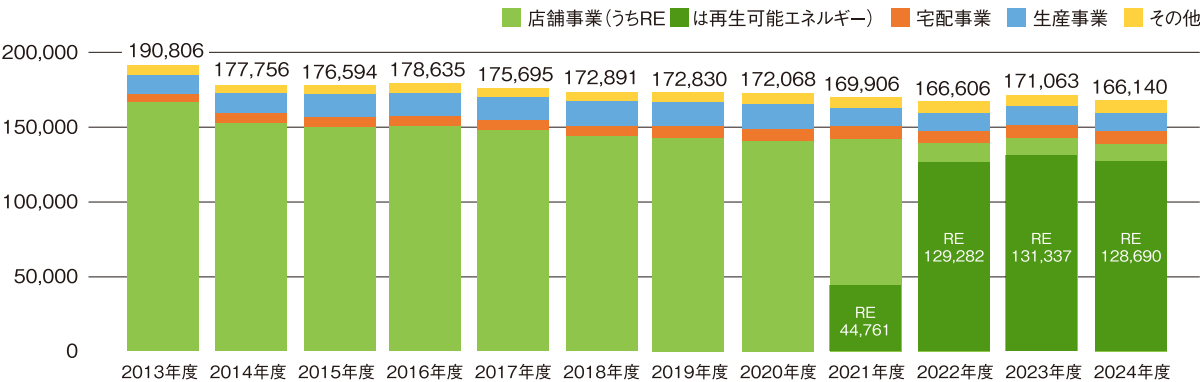
CO₂排出量 ※単位:t

目標は2030年度までに2013年度比で50%の削減です。
2024年度時点で75%削減しています。



電気使用量 ※単位:千kWh

コープさっぽろは2018年10月にRE100に加盟しました。事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにすることを目指しています。再生可能エネルギーの使用目標は2030年度までに60%、2040年度までに100%です。
2021年12月から店舗で使用する電気を再生可能エネルギー由来へと切り替えを進めています。
2024年度時点で使用する電力の77%が再生可能エネルギーです。



※電気由来の排出量は調整後排出係数を用いて算出しています。2024年度の排出係数は未発表のため、2023年度の係数を用いて算出しています。

●エネルギー使用量（電気以外）

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2023年度比
重油(千L)	3,633	3,433	4,033	3,186	2,657	2,292	2,343	2,050	1,242	1,328	1,296	1,224	94%
灯油(千L)	1,778	1,725	1,704	1,817	1,808	1,670	1,500	1,407	1,327	1,198	1,110	1,043	94%
都市ガス(千m³)	1,006	978	1,154	1,357	1,324	1,285	1,358	1,394	1,484	1,445	1,484	1,410	95%
LPガス(千m³)	485	474	462	491	512	543	604	643	673	676	721	682	95%
軽油(千L)	1,956	2,097	2,189	2,228	2,216	2,199	2,284	2,409	2,489	2,480	2,528	2,445	97%
ガソリン(千L)	142	159	169	235	351	403	1,347	1,575	1,447	1,434	1,484	1,429	96%

2019年度からチャーター車両で使用した車両燃料も計上しています。

組合員動態

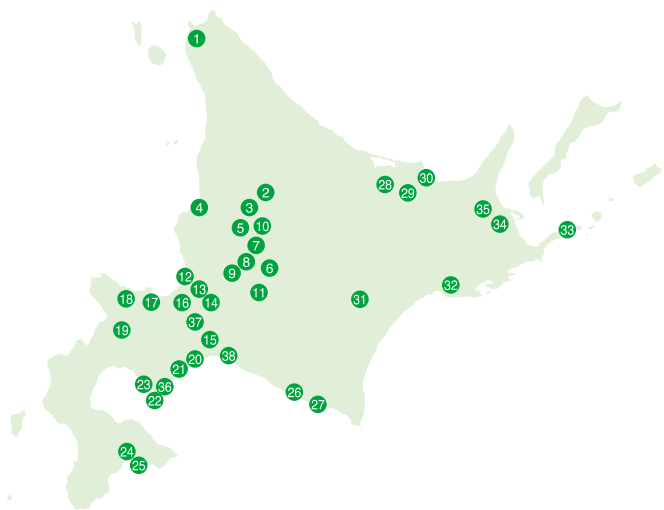
組合員数と組織率

2,059,239 (73.29%)	2,809,828世帯
--------------------	-------------

組合員数は2025年3月23日現在の登録で表記しています。
世帯数は2024年1月末の住民基本台帳を使用しています。

■都市別組合員組織率

1 稚内市	5,963人 (34.8%)	17,147世帯
2 旭川市	149,617人 (84.3%)	177,396世帯
3 深川市	10,961人 (105.9%)	10,351世帯
4 留萌市	11,843人 (110.4%)	10,732世帯
5 滝川市	16,463人 (79.0%)	20,838世帯
6 富良野市	11,886人 (112.1%)	10,602世帯
7 砂川市	8,516人 (100.1%)	8,505世帯
8 美瑛市	12,633人 (117.1%)	10,784世帯
9 岩見沢市	37,263人 (91.4%)	40,752世帯
10 赤平市	6,177人 (115.3%)	5,356世帯
11 夕張市	4,941人 (127.2%)	3,885世帯
12 石狩市	25,201人 (88.0%)	28,623世帯
13 江別市	44,173人 (74.0%)	59,678世帯
14 北広島市	26,738人 (94.5%)	28,290世帯
15 千歳市	28,559人 (54.5%)	52,371世帯
16 札幌市	718,607人 (65.0%)	1,104,953世帯
17 小樽市	56,749人 (93.3%)	60,827世帯
18 余市町	9,775人 (102.5%)	9,537世帯
19 倶知安町	7,639人 (75.9%)	10,058世帯
20 苫小牧市	75,280人 (82.7%)	91,032世帯
21 白老町	9,821人 (106.2%)	9,251世帯
22 室蘭市	30,677人 (70.5%)	43,538世帯
23 伊達市	11,311人 (64.5%)	17,524世帯
24 北斗市	17,900人 (80.7%)	22,189世帯
25 函館市	119,613人 (86.1%)	138,987世帯
26 新ひだか町	10,544人 (92.9%)	11,347世帯
27 浦河町	9,201人 (138.6%)	6,640世帯
28 遠軽町	12,072人 (123.4%)	9,781世帯
29 北見市	49,454人 (80.1%)	61,727世帯
30 網走市	17,512人 (97.4%)	17,985世帯
31 帯広市	53,364人 (59.2%)	90,177世帯
32 釧路市	76,988人 (83.5%)	92,222世帯
33 根室市	9,295人 (76.8%)	12,105世帯
34 別海町	6,096人 (89.4%)	6,815世帯
35 中標津町	8,431人 (73.6%)	11,459世帯
36 登別市	19,016人 (79.3%)	23,993世帯
37 恵庭市	21,037人 (59.3%)	35,501世帯
38 むかわ町	4,558人 (110.7%)	4,117世帯
表記以外の市町村合計	303,365人 (70.1%)	432,753世帯



■年度別組合員動態

年度	項目	組合員数 (人)	前年比 増加数 (人)	増加率 (%)	
				前年比	2019 年度比
2019		1,811,207	48,526	102.8	100.0
2020		1,868,534	57,327	103.2	103.2
2021		1,921,098	52,564	102.8	106.1
2022		1,968,441	47,343	102.5	108.7
2023		2,017,607	49,166	102.5	111.4
2024		2,059,239	41,632	102.1	113.7

※2020年3月20日、住所不明・未利用者1,236名を法廷脱退処理しました。
※2021年3月20日、住所不明・未利用者263名を法廷脱退処理しました。
※2022年3月20日、住所不明・未利用者155名を法廷脱退処理しました。
※2023年3月20日、住所不明・未利用者145名を法廷脱退処理しました。
※2024年3月20日、住所不明・未利用者159名を法廷脱退処理しました。
※2025年3月20日、住所不明・未利用者305名を法廷脱退処理しました。

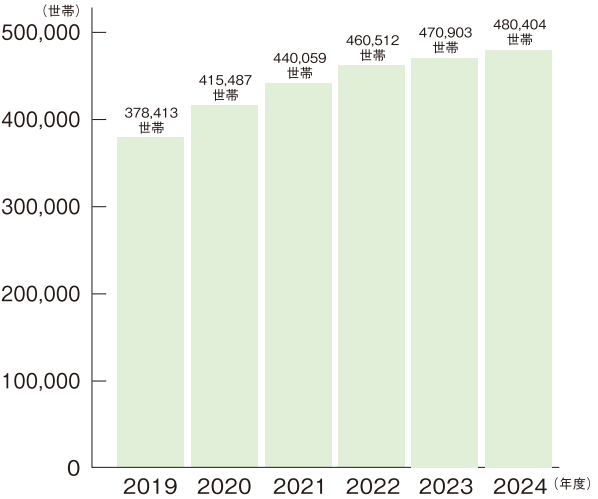
■札幌市行政区別組合員組織率

中央区	73,579人 (48.2%)	152,768世帯
北区	106,863人 (68.2%)	156,759世帯
東区	79,756人 (54.5%)	146,473世帯
白石区	91,184人 (71.3%)	127,834世帯
豊平区	81,427人 (60.4%)	134,744世帯
南区	68,771人 (93.5%)	73,523世帯
西区	78,015人 (64.6%)	120,676世帯
厚別区	48,056人 (71.8%)	66,967世帯
手稲区	53,615人 (75.1%)	71,426世帯
清田区	37,341人 (69.4%)	53,783世帯

基本情報

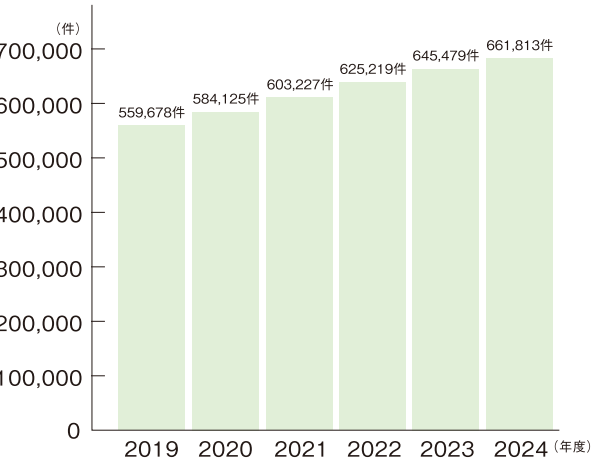
名称	生活協同組合コープさっぽろ (生活協同組合市民生協コープさっぽろを 2000年に名称変更)
創立年月日	1965年(昭和40年)7月18日
創業年月日	1965年(昭和40年)10月1日
本部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員(常務)	●理 事 長 大見 英明 ●専務理事 小松 均 ●常務理事 米内 徹 ●常務理事 鈴木 裕子 (2025年3月現在)
活動エリア	北海道全域(定款)

資料 宅配トドックの登録者数



資料 CO・OP共済の状況

■共済4商品の加入者数



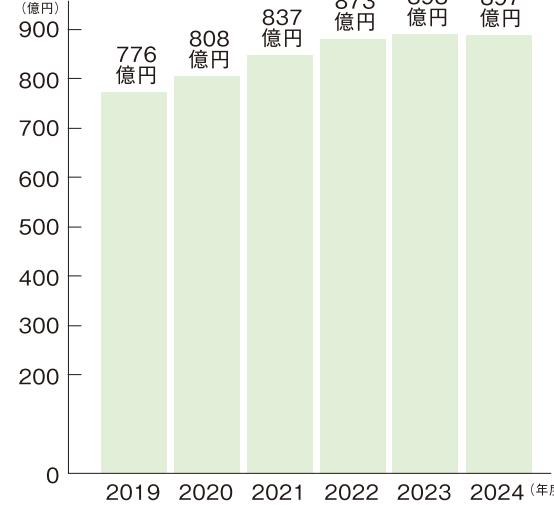
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

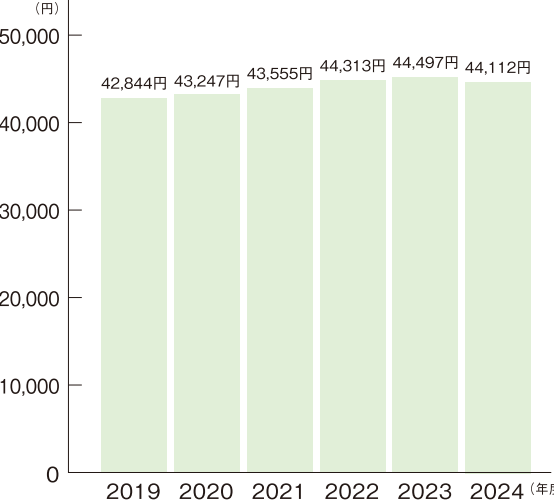
年度	項目	金額 (千円)	前年比 増加額 (千円)	増加率 (%)	
				前年比	2019 年度比
2019		77,599,550	4,695,772	106.4	100.0
2020		80,809,922	3,210,372	104.1	104.1
2021		83,674,043	2,864,121	103.5	107.8
2022		87,309,263	3,635,220	104.3	112.5
2023		89,778,259	2,468,996	102.8	115.7
2024		89,657,058	▲121,201	99.9	115.5

※上記出資金額には千円未満の預り金も含めて表示しています。定款上の出資金(1口千円単位)は89,229,891千円となります。

■年度別出資金残高



■1人当たりの平均出資金



コープさっぽろの取り組みが貢献するSDGs

【SDGs対比表】

コープさっぽろでは、「人・食・未来」を「つなぐ」ことを目標に毎年さまざまな事業を行い、SDGsすべての実現を目指しています。

取り組みのテーマ			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
			人	食	環境	社会	ジェンダー	水	エネルギー	経済	産業	雇用	都市	消費	気候	海洋	陸域生態系	平和	パートナーシップ
人と人をつなぐ事業	医療連携事業健康診断	P07			●														●
	高齢者見守り協定	P11			●								●						●
	ひとり親の高校生へ育英奨学金	P20				●						●							
	大学生育英奨学金	P20				●				●									
	職員奨学金返済支援制度	P20								●									
	日帰りボランティアツアー企画	P21				●							●						
	こまるとコープ	P21			●								●						
	高齢者向け運動教室 まる元	P21			●														
	コープの家族葬	P21			●														
	能登半島地震・能登豪雨災害支援募金	P22											●						●
	能登半島地震への現地支援	P22											●						●
	トドックフードバンク	P22		●										●					
	トドックフードキャラバン	P22		●		●													
	障がい者雇用率8%超え	P23								●		●							
	認知症の方にもやさしいお店登録	P23			●								●		●	●			
	ぬまのはた店オープン	P23											●	●	●				
人と食をつなぐ事業	移動販売車おまかせ便カケル	P10			●								●						●
	スクールランチ	P12		●	●	●													
	食べる・たいせつフェスティバル2024	P24				●								●					●
	北海道どさんこプラザ店内オープン	P24								●				●					
	畑でレストラン	P24		●										●					
	コープさっぽろ農業賞	P25		●										●					
	宅配トドック	P25												●					
	夕食宅配サービス	P25		●	●								●						
	高校生チャレンジグルメコンテスト	P26				●				●				●					
	アニマドーレ	P26				●								●					
	児童会館ランチ	P26		●		●													
	大惣菜化プロジェクト	P27												●					
	なるほど商品シリーズ	P27												●					
	北海道産とうきびアイス発売	P27												●					
	さくらICE CREAMERYオープン	P27												●					
人と未来をつなぐ事業	海のクリーンアップ大作戦!	P28											●			●	●		
	街のクリーンアップ大作戦!	P28											●			●	●		
	北海道森と緑の会と包括連携協定	P28													●		●		
	当麻町と再エネ活用に関する連携協定	P28								●					●				
	エコセンター食器回収スタート	P29				●								●					
	苫小牧市施設太陽光発電事業開始	P29								●					●				
	電力使用状況見える化 トドでんAI	P29								●					●				
	えほんがトドック えほんわくわくキャラバン	P30				●													
	リリアブルと包括連携協定	P30				●													
	コープの学童トドックキッズクラブ	P30				●													
	みんなのよみぎかせ絵本大賞	P31				●													
	ランドセルカバー贈呈	P31				●													
	トドックステーション	P31											●						
	エルゴローディングシステム導入	P32								●									
	SDGs研究会	P32																	●
	買ってカーボンオフセットキャンペーン	P32													●		●		
	サントリー共同 霧多布の自然を守ろう	P32															●		●
	コープ未来の森プロジェクト	P33												●	●		●		
	マクニカ・慈恵会と包括連携協定	P33																	●
	内定3年保証制度	P33								●									
	コープの家で東川町へふるさと納税	P33																	●

コープさっぽろの組織概要

事業所数と形態

本部

本部	1カ所
地区本部	8カ所(札幌・帯広日高・釧路・北見・苫小牧・室蘭・函館・旭川)

店舗

108店舗(2025年3月21日現在)28市20町							
札幌市	29店舗	深川市	1店舗	白老町	1店舗	美幌町	1店舗
江別市	2店舗	砂川市	1店舗	新ひだか町	1店舗	帯広市	2店舗
北広島市	2店舗	滝川市	1店舗	浦河町	2店舗	室蘭市	2店舗
石狩市	1店舗	富良野市	1店舗	えりも町	1店舗	赤平市	1店舗
千歳市	2店舗	留萌市	1店舗	様似町	1店舗	別海町	1店舗
小樽市	2店舗	函館市	8店舗	釧路市	5店舗	登別市	3店舗
余市町	1店舗	北斗市	1店舗	根室市	1店舗	恵庭市	1店舗
倶知安町	1店舗	苫小牧市	4店舗	釧路町	1店舗	福島町	1店舗
岩見沢市	2店舗	伊達市	1店舗	中標津町	1店舗	羽幌町	1店舗
美唄市	1店舗	木古内町	1店舗	北見市	3店舗	知内町	1店舗
夕張市	1店舗	幕別町	1店舗	網走市	1店舗	大樹町	1店舗
旭川市	6店舗	むかわ町	1店舗	遠軽町	2店舗	遠別町	1店舗

コープ宅配システムトドックセンター

43センター9デポ(2025年3月20日現在)

移動販売車

97台(全道137市町村)

生産工場

江別生鮮加工センター

リサイクル施設

エコセンター

葬儀場

コープの家族葬ホール39式場

提携葬儀社50社

2024年度の新設

店舗	2024年11月	ぬまのはた店
宅配	2024年3月 2024年10月	釧路西センター 北広島センター

関係会社

株式会社エネコープ	株式会社兼子
株式会社トドック電力	有限会社光電社
コープフーズ株式会社	さくら食品株式会社
北海道はまなす食品株式会社	株式会社コープフリエ
北海道ロジサービス株式会社	株式会社コープメディア
マテハンエンジニアリング株式会社	クレードル興農株式会社
株式会社M・G建装	ミーツ株式会社
株式会社大雪水資源保全センター	株式会社アイアイター
株式会社コープトラベル	株式会社ウィルキャリアー
デュアルカナム株式会社	株式会社ロジエンス北海道
コープトレーディング株式会社	株式会社デリバリー
コープ協同保険株式会社	株式会社オリエンタルフーズ
株式会社コープ・パートナーズ	株式会社アグリテック真狩
株式会社中央スーパー	株式会社コスモジャパン
株式会社札幌駅立売商会	有限会社F-CARGO
シーズ協同不動産株式会社	